

# 彩の歳時記

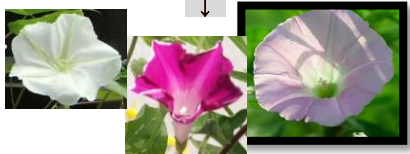
平成二十二年 八月

高円の野辺の容花かほばな 面影に見えつつ妹は忘れかねつも 万葉集 昼顔↓

作者の同伴家持【718～785】が結婚を間近に控えていたと見られる坂上大嬢に贈った歌。

朝顔↓

「容花かほばな」の「かほ」から「面影」という言葉が引き出されています。容花は昼顔のことで、朝顔よりやや遅れた時刻に咲き、夕方に萎むのでこう呼ばれます。夏の白昼、陽射しを浴びた姿を道端に良く見かけますが、万葉の昔に思いを馳せて見るのも趣深いものです。朝顔は平安時代に中国から渡来、昼顔は日本古来の花で今も身近な花、夕顔はウリ科でアジア熱帯地原産、干瓢かんぴょうの原料で白い果肉は食用。夕顔↓



## 八月の異称

葉月 葉が繁るのではなく、葉が散り始める頃。旧暦では、八月は秋も深まり葉が落ちる頃。

## 八月の暦

一日 八朔はつさく 八月朔日の略。元は旧暦の行事で新作物の穫り入れや贈答の習慣があった。

二日 大雨時々降る【二十四節気・雑節】

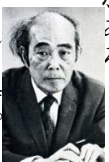
四日 ビアホールの日 1899(明治32)年、銀座松坂屋並びに現存する日本で最も古いビアホール。「エビスビヤホール」(サッポロライオンの前身)が開店した。



## 草田男忌

俳人・中村草田男【1901(昭和34)～1983】の忌日。外交官の父の赴任先、中国福建省で

生まれ三才の時、帰国。昭和四年、高浜虚子の門弟となり、同人誌『ホトトギス』に作品を発表。人間探究派と呼ばれ、昭和初期の俳壇に大きな影響を与えた。俳誌『萬緑』を創刊・主宰し、後進の指導にもあたった。母校の青南小学校(南青山)に「明治と雪」の有名な句碑がある。今年、明治から数えて、百四十二年。【降る雪や明治は遠くなりけり】



六日 広島平和記念日 マスコミで毎年のように特集が組まれ、戦争・原爆について考えさせられる時。今年、普天間基地問題を通して、自身の問題として捉える人も多いのでは。

七日 立秋【二十四節気】 暦の上では秋になる日。実際は暑さ厳しく、夏本番。

九日 長崎原爆の日 爆心地周辺の平和公園にある「長崎平和祈念像」は日本を代表する美術家で郷土出身の北村西望(にしむ)【1884～1987】作。左手は平和を、横にした足は原爆投下直後の静けさを、立てた足は恐怖を、閉じた目は犠牲者の瞑福を祈る。



十五日 終戦記念日 戦死者は約212万人、空襲による死者は約14万人の犠牲を無駄にしないようにと。月遅れのお盆 この日の前後に長期休暇をとる企業が多い。

十六日 大文字焼【五山送り火】 五山は「南禅寺(別格)天龍寺(一位)相国寺(二位)建仁寺(三位)東福寺(四位)万寿寺(五位)」。京都の夏の夜空を彩る。



二十三日 処暑【二十四節気】 暑さが終わるといふ意味。

## 八月の歌

ブンガワン・ソロ 訳詞 緒園 涼子 詞・曲 グサン

1940年に作られ、ジャワの人々に愛唱された。日本では松田トシ【1915～】の歌唱で1948年に発表。1951年に市川崑監督・池部良主演で終戦直前、ジャワのある村落に迷い込んだマラリアに苦しむ脱走兵と村娘の悲恋を描いた映画「ブンガワンソロ」が作られた。「マンガ売り」「南の花嫁さん」「ラバウル小唄」など、ジャワに因んだ歌謡曲が戦後、愛唱された。



ブンガワンソロ 涯しなく  
清き夢のせ流れゆく  
父母も若き日頃  
ともに聞きし愛の調べ  
星は移りゆき  
世の人は変われど  
愛はとこしえに  
ただひとすじ  
ブンガワンソロ 涯しなく  
清き夢のせ流れゆく